



家具の固定は大丈夫ですか?
ご相談ください!



SSVNのテナント内は、市社協農協SSVN協働で、災害ボランティアセンターの体験コーナーを出展。4年前の台風19号災害のボランティア活動では、受付・マッチング・活動場所への地図・活動報告書などが全て紙媒体だったものが、今はスマホを用いてQRコードを読み取りという、災害ボランティアの世界もICT化で目を見張るものがありました。

9月1日(金)に相模原給しゅう一部返還地及び周辺でおこなわれた九都県市合同防災訓練にボランティア協会も参加しました。「相模原災害ボランティアネットワーク(SSVN)」の一員として、「家具転倒防止ボランティア」の活動をパネル展示しました。

九都県市合同防災訓練に参加
しづみ 久美



*「からふらっと」名前の由来

「から」はカラフルということから、参加者は十人十色、様々な事情を抱えた人達が参加すること。「ふらっと」はFLATということから様々な事情を抱えている参加者に上下関係はなく、生きづらさを抱える当事者としてみんな同じ立場で参加して欲しいという意味を込めて「からふらっと」を当事者の皆さんのアイディアで付けました。



くにたち陽向菜縁では“つながり”も“野菜”も一緒に育てています!

*お問い合わせ先
社会福祉法人 国立市社会福祉協議会
(国立市富士見台2-38-5)
地域生活支援課 地域福祉係CSW
☎ 042-580-0294
✉ csw@kunitachi-csw.tokyo

*取材班の感想

初めての市外取材ということで3名で取材にうかがいました。取材班3人のそれぞれの感想から、とても素敵な居場所だったということを感じていただければと思います。

★まず、市社協職員と当事者スタッフ3名の連携は素晴らしい。特に当事者スタッフはいろんな過去がありながらも明るく笑顔で、周りの状況を把握しながら気配りしている。当日は奥の広間に机が3つ用意しており、右の1つの机の周りには10人ぐらいの人が集まりゲームを楽しんでいる。奥の机には4人の人が話し込んでいる。左の机には当事者スタッフと当事者が話していたが、スタッフ席を離れると社協さんがそこにいられた。我々のいた手前の部屋では7、8人の人が車座になってある人は大声で話していたが、いつも隅っこにいた人も当事者スタッフもその輪の中に入っていた。

★今日参加されている皆さんは、素晴らしい人ばかりで社会復帰されたら世の中に貢献する人はかりだと感じました。是非、ここで自信をつけていただいて社会に貢献されることを願っています。(高橋)

★ゲームを楽しむ人、話を楽しむ人、その様子を見ている人、どの人の表情も明るく穏やかだった。この場所に居たい、居ていいんだ、自分を受け入れてくれる場所。見守るスタッフの表情からも優しさが伝わってくる。人と繋がりたい、繋がってほしいという思いを感じた。「からふらっと」はそんな場所だと思いました。(小山)

★一緒に過ごした時間は、我々にとってもホッとでき癒しになった。なによりも集まっていらっしやる皆さんがとても優しい。この優しさが、誰でも包み込むあの空間を生み出しているんだーと、取材班も優しい気持ちのまま帰路についた。(恒藤)

